

〈一般研究課題〉 子育て女性の豊かな地域環境の創造  
～住宅近隣地域における育児期の女性の  
コミュニケーション発生と場所特性～  
助成研究者 名古屋市立大学 原田 昌幸



## 子育て女性の豊かな地域環境の創造 ～住宅近隣地域における育児期の女性の コミュニケーション発生と場所特性～

原田 昌幸  
(名古屋市立大学)

### Fertile Regional Environment for Child-care Women Occurrence and its Site of Communication of Child-care Women on their local community

Masayuki Harada  
(Nagoya City University)

#### Abstract

The purpose of this study is to clarify occurrence and its environmental factors of communication of child-care women on their local community, effects of communication to secure and fertility in their minds and role of regional environment for them. Author conducted a questionnaire survey and interview-survey at 8 residential areas in Nagoya. And then the following results were obtained: Stress is a common phenomenon for child-care women, but their environmental factors like communication at their local community seem to lighten stress. Each residential area has different sites where communication frequently occurs.

#### 1. はじめに

##### 1.1 研究の背景と目的

社会心理学や発達心理学の多くの研究が指摘するように、すべてのライフステージの中で、育児期の女性がかつともストレスを受けている。特に幼少の第1子を持つ女性は、慢性的に身体的な疲労と心理的不安を感じている。これらの女性は、住宅と住宅周辺の地域で過ごす時間がほと

らんどで、その分、住んでいる地域の重要性が高くなる。特に、出産・育児のため退職や休職などの社会的な環境変化がある場合には、地域の役割が急変することになり、地域にうまく受け入れられるか否かは、これらの女性の心の安定に直接的にかかわる重大事である。

本研究の大目的は「子育て女性の豊かな地域環境の創造」である。そのためには、地域における育児女性の地域住民とのコミュニケーションとその発生の環境的要因、このコミュニケーションが心の安定や豊かさに及ぼす影響を明らかにする必要がある。特に地域環境における育児女性の行動と地域の場所を鍵にして、コミュニケーションの発生とその心理に及ぼす影響、及び地域が担える役割を明らかにし、地域計画の政策提言へつなげることが求められる。

## 1.2 名古屋市の児童福祉

子育て環境の整備に関する名古屋市の取組みについて、簡単に整理しておく。現在、名古屋市では名古屋新世紀計画2010を策定し、以下にあげる3つの基本方針が示されている。

- ① 子育てしながら安心して働くことができるための保育サービスの充実や、子育ての不安や悩みの解消に向けた相談体制の充実や交流活動への支援など、家庭や子育てに夢が持てる環境づくりをすすめる
- ② 豊かな遊びと体験活動による子どもの健全育成をすすめるなど、子どもが健やかに育つことのできる環境づくりをすすめる
- ③ 子どもへの虐待などの問題の発生防止、早期発見・早期対応の体制を強化するとともに、家庭において養育が困難な子どもやひとり親家庭など、援助を必要とする子どもと家庭の自立を支援する

これらの基本方針に従い、様々な施策がとられているが、地域における子育て女性を配慮した施策として、託児に係わるサービスは比較的充実しているものの、精神的なケアを意図したものは非常に少ない。むしろ、育児女性の地域での交流を促す施策については皆無といってよい。上記①に関連して、子育て相談窓口の設置や医師などの専門家の講話や実技指導をする子育て教室の開講、妊婦や初めての乳児を持つ親がお互いに交流し、子育ての情報の交換や仲間づくりができるよう交流の場をもうける子育てサロンの設置などがそのすべてであり、上記②に関連して、地域の身近な公園の整備が掲げられているが、目的は子どもが健やかに育つ環境づくりであり、母親同士の交流などの育児女性への配慮は意識されていないのが実状のようである。

## 1.3 子育てに関する先行研究

女性の社会進出、核家族の増加、社会環境の変化等により子育てに悩む母親が増えている。母親の育児不安や育児ストレスについては、児童虐待や育児ノイローゼ等の社会問題となっており、母親自身の心身の健康や子どもの健全な発育に有効な子育て支援について検討することは重要である。野口ら<sup>1)</sup>は「子どもの発育」「育児中の母親の環境」「夫の考えやサポート」「子どもとの関係」が母親のストレスだと述べている。清水らの研究<sup>2)</sup>においても、子どもの発達に対する懸念は母親の一般的なストレスであることが示唆されており、この育児ストレスは避けがたいものであると述べられている。乳幼児をもつ就労女性の育児ストレスについて、平岡ら<sup>3)</sup>は、「育児と仕事の両立をはかるための支援策として乳幼児をもつ母親自身がストレスを認知し自発的な相談や社会資源の活用ができることである」と述べており、多様な相談の場の必要性を示し

ている。このように育児ストレスについて書かれたものは多く存在している。しかしそのストレスを解消する中で、地域交流に焦点を当てて書かれた論文は少ない。また、建築計画学分野では、児童館・保育園・保育所など施設に関するものが多く、最近では定行ら<sup>4)</sup>の児童館、藤田ら<sup>5)</sup>の幼稚園、山田、佐藤ら<sup>6)</sup>の保育所に関する研究報告の他、乳幼児に関したものでは大谷ら<sup>7)</sup>が子育て支援型集合住宅を取り上げている。従来の建築計画学では、地域と育児女性との関係は安全性や利便性の実現、地域の施設・サービス計画など、主に環境整備を目的として取り上げることが多かった。ところが、子育て女性の豊かな地域環境の創造を考えた場合、物質的な利便や充足に加えて、精神的な充実、特に他の地域住民との良好な交流の成立が不可欠である。近年、高橋ら<sup>8)</sup>の近隣における生活行為と空間のコミュニティ計画の基礎的研究など、近所付き合いについての研究が現れ始めたが、子育て女性を対象とした地域住民全体との係わりを視軸として、地域環境との関係を扱った研究はまだまだ少ない。

## 2. 研究の概要

育児期の女性の子育てに関する意識や日常の生活行動、子育て環境などについて明らかにすることを目的にアンケートを用いた標本調査を、地域でのコミュニケーションの発生とその特性、地域での日常行動や子育て行動を明らかにすることを目的に面接法によるインタビュー調査を、実施した。

### 2.1 アンケート調査の概要

#### (1) 対象地区と対象者

対象とした地区は、いずれも都市計画上の用途地域指定がほぼ住居地域か住居専用地域である。8つの対象地区のうち、4つが一般的な住宅地で、残る4つが公団の大規模な集合住宅団地である。駅からの距離や建設時期（集合住宅団地の場合）などを考慮して、多様な地区を選定した。表1に8つの地区の概要を、図1に地区の立地を示す。

対象者は各区役所の住民基本台帳から系統抽出した。計画サンプルは全体で600人である。

#### (2) アンケート調査項目

アンケートは、子育てに関する意識や日常生活行動、ストレス、子育ての環境、地域環境などを問うもので、表2に示す18問と、対象者や子どもの年齢などを問うフェイスシートからなる。

#### (3) 調査方法と回収状況

調査は往復郵送法で行われた。アンケート票をお願い状と返信用封筒とともに、調査対象者本人宛に郵送し、1週間程度のうちに返信するように依頼した。概ね1ヶ月以内に返信された300票を有効票として分析に用いた。有効回収率は全体で50.0%と、往復郵送法の調査としては非常に高い結果であった。

### 2.2 インタビュー調査の概要

#### (1) 対象地区と対象者

アンケート調査に併せてインタビュー調査の依頼を行い、同意の得られた27人を対象に、インタビュー調査を実施した。

(2) インタビュー調査項目

インタビューは、日常の地域での外出行動、コミュニケーション、育児ストレスなどについて行った。

(3) 調査方法

インタビューは2008年12月に対象者宅または名古屋市立大学の北千種キャンパス内にて行った。インタビューに要した時間は1～2時間である。インタビューに先立ち、2日間、地域での行動記録と、地域住民とのコミュニケーション発生場所の撮影、及びその内容をメモしていただいた。インタビューは、撮影された写真とメモをもとに、キャプション評価法を応用して行った。

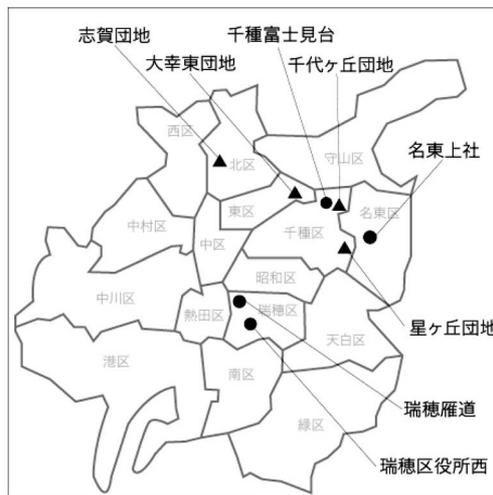


図1 調査地区の立地

表1 調査地区の概要

	地区名	アンケート調査			インタビュー調査 標本数	地区の概要		
		標本数	回収数	回収率		地区の人口	地区の世帯数	特徴
一般住宅地	名東上社	100	38	38%	4	8,346	3,823	駅北側のやや新しい住宅地
	千種富士見台	95	48	51%	3	5,246	2,066	駅から離れた比較的新しい住宅地
	瑞穂雁道	70	39	56%	4	4,070	1,878	駅から離れた比較的古い住宅地で、近以前からの住民が多い、近くに商店街がある
	瑞穂区役所西	84	54	64%	4	3,289	1,447	駅近くの比較的古い住宅地
集合住宅団地	星ヶ丘団地	51	26	51%	4	1,283	693	築7-13年、駅から近い若い世代多い、転入出が頻繁
	志賀団地	64	30	47%	4	2,334	900	築11-16年、駅から遠い(立替)色々な世代が居住
	大幸東団地	82	32	39%	3	3,112	1,433	築27-30年、駅から近い、若い世代と高齢の世代に二極化
	千代ヶ丘団地	54	22	41%	1	2,384	934	約27-30年、駅から遠い、色々な世代が居住

表2 アンケートの調査項目

1 あなたが、子育てについて日頃どのように考えているか、お尋ねします。いろいろな考え方がありますが、次のひとつひとつの質問についてあなたの考えにもっとも近いものに○をつけてください。

- (1) あなたは、子どもを授かって良かったと思う時がありますか。  
1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. 全くない
- (2) あなたは、自分の子育てが上手くいっていると思いますか。  
1. 思う 2. どちらかというと思う 3. どちらかというと思わない 4. 思わない
- (3) あなたは、子育てが原因でイライラしたり、憂鬱ゆううつになったりなど、ストレスがたまると感じることはありますか。  
1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. 全くない
- (4) あなたは、子育ての悩みを誰かに相談したことはありますか。相談したことの相手すべてに○をつけてください。  
1. 夫 2. 親や兄弟などの親族 3. 友人 4. 子供を通して知り合った知人  
5. 近所の人 6. 保育士 7. その他( ) 8. 特にいない
- (5) あなたは、子どものために自分の時間がないと思うことがありますか。  
1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. 全くない
- (6) あなたは、同居家族の家事に対する協力を満足していますか。  
1. 満足している 2. どちらかという満足している 3. どちらかという満足していない 4. 不満がある
- (7) あなたは、同居家族の子育てに対する協力を満足していますか。  
1. 満足している 2. どちらかという満足している 3. どちらかという満足していない 4. 不満がある
- (8) あなたは、子どもを数時間、同居家族以外の誰かに預けたことはありますか。預けたことのある人、すべてに○をつけてください。  
1. 同居していない親族 2. 友人 3. 子供を通して知り合った知人  
4. 近所の人 5. 保育士 6. その他( ) 7. 特にいない
- (9) あなたは、子どもを叱る前に冷静になろうと考えることはありますか。  
1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. 全くない
- (10) あなたは、子どもの意見を尊重したいと思うことはありますか。  
1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. 全くない
- (11) あなたは、子育てを通して近所に新しい知り合いができましたか。  
1. 何人かできた 2. 一人できた 3. まだできていない
- (12) あなたは、今住んでいる場所は子どもを育てる環境として良いところだと思いますか。  
1. 良い 2. どちらかというが良い 3. どちらかというと良くない 4. 良くない
- (13) 一日中、あなたと子どもだけで家にいることがありますか。  
1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. 全くない
- (14) あなたは、近所に同じ年の子どもを持つ知人はいますか。  
1. 何人かいる 2. 一人いる 3. いない
- (15) 近所によく子どもを連れていく公園はありますか。  
1. たくさんある 2. 一カ所ある 3. ない
- (16) あなたは、子どもと一緒に外に出かけることがありますか。  
1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. 全くない
- (17) あなたは、近所にある魚屋や肉屋などの個人商店に行くことがありますか。  
1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. 全くない
- (18) あなたは、近所のお店の店員さんと世間話せけんばなしをすることがありますか。  
1. よくある 2. 時々ある 3. あまりない 4. 全くない

### 3. アンケート調査による子育てに関する意識

#### 3.1 子育てに関する意識と地区による相違

子育てに関する意識の地区別集計結果の一部を図2に示す。図2(a)の「子どもを授かって良かったと思うときがあるか」では、どの地区でもほぼ100%が『よくある』『時々ある』と回答しており、子どもへの愛情や喜びが推察できる。ところが、(b)に示す問(3)の「子育てが原因でストレスがたまると感じることもあるか」では、『よくある』『時々ある』が8割あり、継続的に子育ての精神的な負荷があることが分かる。図を示さないが、問(5)「子どものために自分の時間がないと思うことがあるか」でも『よくある』『時々ある』が8割程度見られた。また、子育てと地域との関係については、図2(c)の問(11)「子育てを通して近所に新しい知り合いができたか」で、『何人かできた』が8割を超え、子育てが地域交流の1つのきっかけになっていることも窺える。

なお、地区による相違は、質問項目によって多少の違いが見られるものの、全体的な傾向として、特徴的な結果は得られなかった。ただ、問(18)「近所のお店の店員と世間話をするか」は地区により大きく異なっていた。

図3(a)に問(4)「子育ての悩みを誰かに相談したことがあるか」、(b)に問(8)「子どもを数時間、同居家族以外の誰かに預けたことがあるか」の集計結果を示す。悩みの相談では、『夫』『親や兄弟などの親族』に続いて、『友人』や『子育てを通して知り合った知人』の割合が高いが、『近所の人』は12%とそれほど高くない。他方、子どもを預けることに関しては、『同居していない親族』がほとんどで、『保育士』を除くといずれも少なく、『子どもを通して知り合った知人』でもわずか9%である。『預けたことが特にない』も11%おり、子どもを預けることの難しさが窺える。



図2 子育てに関する意識の地区別集計結果

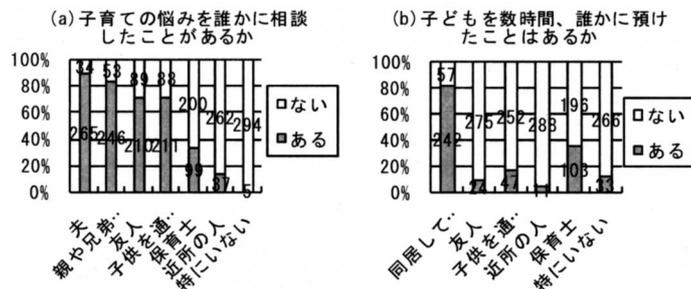


図3 子育ての悩みの相談と子どもを預けることに関する集計結果

### 3.2 子育てに関する意識と対象者属性による相違

対象者属性による意識の相違を検討するため、対象者の年齢、職業、最も若い子どもの年齢と意識についてクロス集計を行った。対象者年齢とのクロス集計結果の一部を図4に示す。図4(a)の問(6)「同居家族の家事協力を満足しているか」と対象者年齢の関係を見ると、年齢層がより若いほうが満足である割合が高くなっている。図は示さないが、問(5)「子どものために自分の時間がないと思うことがあるか」でも年齢層がより若いほうが思う割合は低くなっている。(b)の問(9)「子どもを叱る前に冷静になろうと考えるか」でも若年齢層のほうが考える割合が高い。(c)の問(18)の「近所のお店の店員さんと世間話をするか」でも、年齢層による差異があり、若年齢層のほうが世間話をする割合が高くなっており、若年齢層のほうが負担を感じずに子育てをしているのかもしれない。

図5に最も若い子どもの年齢と問(3)「子育てが原因でストレスを感じることもあるか」のクロス集計を示す。図をみると、0歳や1歳の子どもを持つ対象者より、2歳、3歳、4歳の子どもを持つ対象者の方がストレスを感じる割合が高くなっている。なお、対象者の職業と意識には、はっきりとした関係は見られなかった。

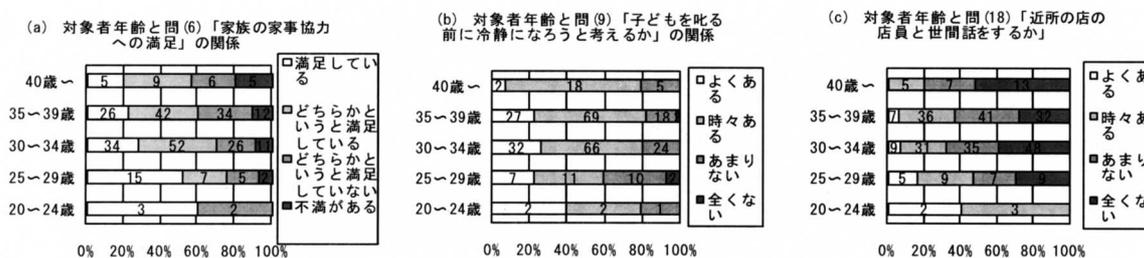


図4 子育てに関する意識と対象者年齢の関係

### 3.3 家族の支援と子育て意識の関係

問(6)「同居家族の家事協力を満足しているか」や問(7)「同居家族の子育て協力を満足しているか」などの家族の支援に対する質問と子育て意識との関係を分析した。クロス集計の結果の一部を図6に示す。

図6(a)を見ると、家族の家事協力への満足と、問(1)「子どもを授かって良かったと思うことがあるか」には関係が見られないが、(b)のように、家族の家事協力への満足と子育て意識は強く関係しており、家事協力への不満を感じている対象者ほど、子どものために自分の時間がないと思う頻度が多くなる。また、図は示さないが、今住んでいる場所について、子どもを育てる環境として良いと評価する割合が低下する傾向が見られた。

### 3.4 対象者の日常生活行動と意識の関係

対象者の日常生活行動と意識の関係を分析するため、問(16)「子どもと一緒に外出することがあるか」や問(18)「近所のお店の店員と世間話をするか」、問(15)「近所に子どもを連れて行く公園があるか」などに対する質問と子育て意識とのクロス集計を行った。結果の一部を図7に示す。

図7(a)と(b)に見られるように、子どもと外出する頻度が高い対象者ほど、子どもの意見を尊重したいと考える頻度が高く、今住んでいる場所が子どもを育てる環境として良いと評価する割合が高くなっている。また(c)にみられるように、近所のお店の店員と世間話をする対象者ほど、子どものために自分の時間がないと感じる頻度も少なくなる。

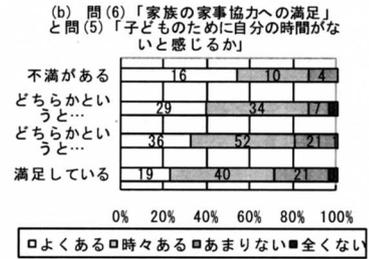
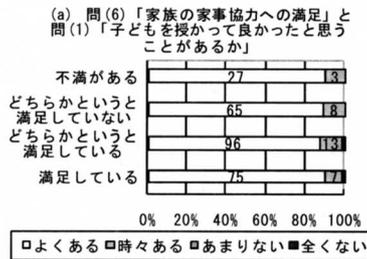
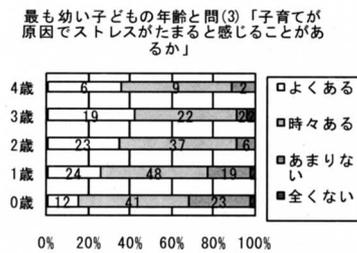


図5 子育てと子どもの年齢の関係

図6 家族の支援と子育てに関する意識の関係

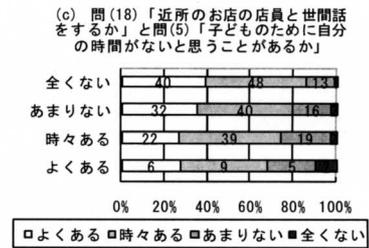
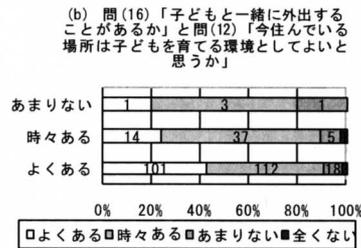
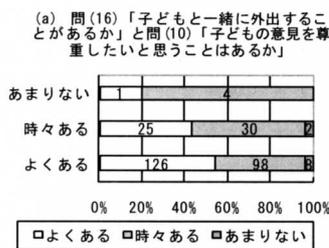


図7 対象者の日常生活行動と子育て意識の関係

#### 4. インタビュー調査による地域でのコミュニケーションの分析

##### 4.1 地域でのコミュニケーション発生場所

2日間の外出経路と実際に発生したコミュニケーションの記録及びインタビュー調査で聞き取った日常のコミュニケーションの発生場所を図8に示す。

##### (1) 住宅地居住者のコミュニケーション

全体的な傾向として、集合住宅団地に比べ、外出行動の範囲が広く、地域住民とのコミュニケーションの頻度は幾分少なかった。

4つの住宅地の中でも、地域でのコミュニケーション発生場所に違いがみられた。図8(a)に示す名東上社地区では地区内にある1つの公園で多くのコミュニケーションが発生していた。図は示さないが、千種富士見台地区では発生場所が点在しており、地区内に幾つかある大きな公園を含め、集中する場所が見られなかった。他方、図8(b)に示す瑞穂雁道地区では商店街と路上の各所でコミュニケーションが発生していた。図は示さないが、瑞穂区役所地区でも、スーパーマーケットや地区内の公園に加えて、路上でのコミュニケーションが散見された。

地区の特徴として、名東上社地区は県外からの転住者、千種富士見台地区は市内や近郊からの転住者が多い地区であり、瑞穂雁道地区は以前から住む住民が多い地区、瑞穂区役所西地区は以前から住む住民と転住者が混ざった地区である。

瑞穂雁道地区では、路上での「挨拶」を中心とするコミュニケーションが多く観察され、地域コミュニティにおいて住民間のつながりが窺えた。一方、残る3地区では住宅の前を除いては路上でのコミュニケーション量は少なかった。

##### (2) 集合住宅団地居住者のコミュニケーション

全体的な特徴として、集合住宅団地では、団地内や団地に隣接した公園などでコミュニケーションが多く発生しており、前述の住宅地に比べ、コミュニケーション発生量は多いものの、

行動範囲は狭い傾向が見られた。

図8(c)の星が丘団地では、団地内にある公園・広場・店舗と、幼稚園などの送迎バス停、および200～300mほど離れた百貨店とショッピングモールでコミュニケーションが発生していた。紙面の都合上、図は示さないが、志賀団地では、団地内広場と店舗および隣接公園でコミュニケーションが多く発生していた。大幸東団地でも同様に、団地敷地内の公園や広場、店舗、隣接する保育園でコミュニケーションが発生していた。サンプル数が1人の千代が丘団地でも同様の傾向が見られた。

4つの集合住宅団地の特徴として、いずれの団地でも転出入があり、中でも星が丘団地は多い。住民構成としては、星が丘団地は若い世代が多く、志賀団地と千代が丘団地は色々な世代が混住し、大幸東団地は若い世代と高齢の世代に二極化している。

集合住宅団地では、住宅地に比べ、コミュニケーションの内容として「会話」が多くみられた。多くはママ友達や隣人であるが、高齢の世代が多い大幸東団地では、高齢の住民が話しかけてくるなどの交流がみられた。しかしその一方で「挨拶」はそれほど多くなかった

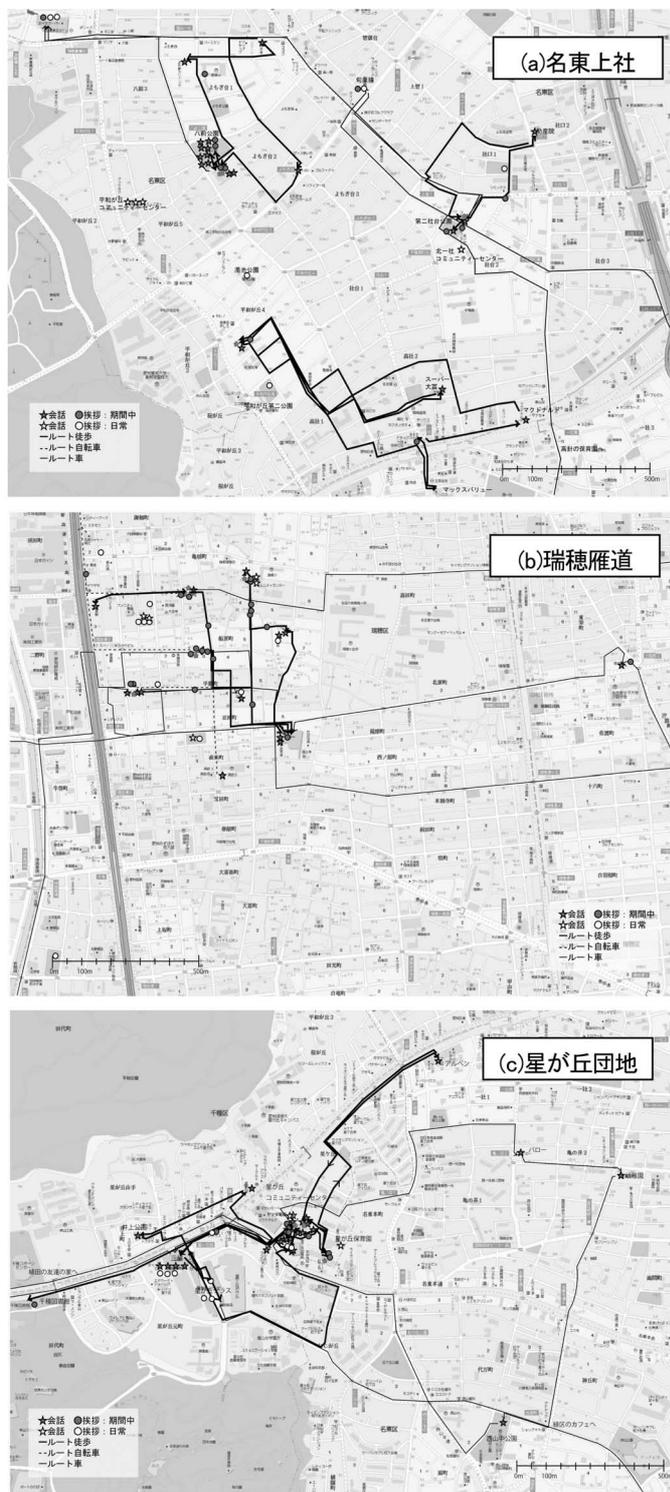


図8 地域での外出行動とコミュニケーション

## 4.2 地域でのコミュニケーションと居住者の属性

### (1) 地区による居住者の相違

インタビュー調査から、地区によって、居住者のタイプが異なる傾向があることがわかった。簡単に8つの地区それぞれの居住者の特徴について整理しておく。

星が丘団地は駅から近く新しい。子連れの若い世代が多く、毎年数割の世帯が入れ替わるよ

うだ。入れ替わりが多い分、なじみやすいと4人とも感じていた。また星が丘団地では高齢者や昔からの住人は少ない。東山線沿線で交通の便が良く、近くに百貨店やショッピングモールがあり、生活に便利のため、転勤族にとって住居地として候補になりやすいと考えられる。そのため、初めて名古屋に来た人でも住居地として選択されやすく、すぐに団地に馴染み込み、団地内での繋がりは発生しやすいのではないだろうか。

大幸東団地は駅から近い立地であるが建設年は古い。転勤族の他に昔から住む老夫婦や一人で住む高齢者が多いとインタビューをした3人全員が答えている。親世代・子世代・高齢者世代の3世代の交流が団地の中で日常的に行われており、祖父や祖母が遠くに住む人達にとって、子どもがお年寄りと接する機会に恵まれていることは子どもの教育にとっても良いという意見もみられた。実際にインタビュー調査を行った数日間、団地内のあらゆるベンチにはお年寄りが座っていることが多く、話しかけて来る人もいた。このような高齢者はある程度居住者を把握しており、コミュニティ形成の一端を担うとともに、外部から来た人を察知する役割を持っているのではないだろうか。

志賀団地は平成元年に新しく建て替えられた団地である。そのため昔から住み続けている人が多く、高校生や大学生の子どもを持つ家庭も多く存在している。色々な人が住んでいるため、同世代の母親や同い年の子どもを持つ母親が他の団地と比べると少ない。

千代ヶ丘団地については、サンプル数が1からの意見であるが、転勤族が多く、お年寄り、子連れ、大きな子どもを持つ家族などいろんな人が混ざって生活しているようである。

住宅地にも居住者の相違が見られた。

名東上社地区では、比較的戸建ての家が多く、転勤族が多く住んでいると4人全員が答えた。せっかく戸建てを購入しても転勤によって人に貸し出す場合があるようだ。この地域は幹線道路から離れた閑静な落ち着いた住宅地であり、公園もいくつか存在し、学校の評判も高いため、子どもを育てる環境として良い所と評判を聞いて住みだす場合がほとんどだという意見が複数あった。

千種富士見台地区では、名古屋市内や近郊からの転住者が多く、お隣やお向かいの家の住人は知っているのに、3軒先の家には誰が住んでいるか全く知らないという意見が複数みられた。インタビューを行った3人中2人は近くに実家があり、実家との行き来など親とのコミュニケーションが活発な傾向がある。その分、地域でのコミュニケーションが少ないようである。

瑞穂雁道地区では昔からそこに住む人が多く、地元をこよなく愛している人が多いと4人中3人が答えた。そのため、知人も多く、地域の目が非常にある地域である。また同時に、嫁として初めて雁道に住む人にとっては、当初はなわばりのようなものを感じ、入りにくい地域だという意見もみられたが、路上でのコミュニケーションが多いため、徐々にコミュニティに溶け込むようである。

瑞穂区役所西地区では、4人全員が昔から住む人の割合は高いと述べている。また、親が近くに住んでいる核家族が多く存在しているという意見もみられた。常にボランティアのみどりのおじさんやおばさんが学校周辺に立っているため、地域の目があるといえそうだ。

## (2) 地域によるママ友達発生場所の相違

表3に対象者ごとのコミュニケーションの発生場所を示す。表中の◎は悩みを相談できる深

い友達、○は子どもの話や世間話をする友達、△はあいさつをする程度の関係を示す。

星が丘団地におけるママ友達の発生には、団地内の子供会が非常に大きな役割を果たしており、その他には近隣の産婦人科と子育てサロンが発生場所となっている。調査対象者は4人全員が小学生の子どもをもっていなかった。幼稚園に入る前の子の「ひまわり」と、幼稚園児の「キッズクラブ」という2つの子供会があり、子供会でコミュニティが形成し、団地内公園によってそのコミュニティが強いものになっているようだ。産婦人科での発生というのは、出産前後にピクスと呼ばれる運動教室があり、そこで他の母親とコミュニティが形成されるようである。その他、夫の帰りが遅い世帯で、団地内の仲良い数組の親子でおかずを持ち寄り、共に夕食と取ったり、園バスの送迎場所で、バスが出発した後20分ほど立ち話をしたりするなど、の交流がみられる。

表3 地域別コミュニケーション発生場所

	地区名	名前	年齢	子供の人数	小学生	園児	未就学児	小学校	保育園	子育てサロン	団地内公園	公園	マンション内	スーパー	子供会	産婦人科	園バス送迎場所	道	その他	数	
一般住宅地	名東上社	CK	33	1			1			○		○				◎				3	
		HA	37	1			1			◎			○	△					○	4	
		MT	30	2		1	1			○		◎					◎		○	4	
		TN	32	1		1				○		◎								○	2
	千種富士見台	MN	34	2		1	1			◎									△	○	2
		TS	36	2	1		1		◎			○								○	2
		EI	34	1			1				◎	△		△					△	○	4
	瑞穂雁道	MM	28	2			2				◎	◎								○	3
		SS	30	1			1													○	1
		SH	35	1			1				◎									○	3
		RT	37	3	2	1			○	○	○						◎			○	6
	瑞穂区役所西	MK	31	1			1						◎							○	2
		TK	38	1			1			○		△			○						3
		SW	35	1			1			◎				△					△	○	4
		AI	31	2		2				◎										○	2
	集合住宅団地	星ヶ丘団地	JK	31	1			1			◎			△		◎					4
RT			32	2			2				○				◎					2	
AJ			29	2		1	1				○				◎	◎	○			4	
IN			35	2		1	1				○				◎	◎	○			4	
志賀団地		YY	45	2		1	1				◎	○							○		3
		RD	32	2	1	1			○	○		○					◎	○			5
		NH	44	1			1				○								○		2
		YK	34	1			1			◎		△								○	3
大幸東団地		YT	38	3	1	1	1					◎			△						2
		AI	32	2		1	1			◎			○								2
		KM	35	1			1				◎	○			△						2
千代ヶ丘団地		KO	35	3	1	1	1			◎	◎								△		3

大幸東団地では3人がそれぞれママ友達の発生場所として異なる場所を挙げている。団地内公園と保育園、子育てサロンである。公園の数が3つあるが、それぞれ異なるコミュニティが発生しており、強い関係ではないがグループが存在しているようである。その他、団地内にはスーパーや医院などいろいろな店舗があるが、店の店員との交流が発生している。

志賀団地では、団地内公園と子育てサロン、保育園、産婦人科、園バスの送迎場所がママ友達の発生場所として挙げられている。園バスの送迎場所では毎朝の情報交換があり、それがきっかけとなってお互いに家に遊びに行くなどの交流がみられる。このほか、小学校の子どもを通して知り合ったママ友達が存在し、出会いの場は豊富なようである。

千代ヶ丘団地では、団地内の幼稚園がコミュニケーション発生場所の機能をしており、幼稚園に子どもを預けた後、母親同士の雑談が、団地内のコミュニティへと広がっているようである。

名東上社地区では公園と子育てサロンが、交流の場所となっている。また、産婦人科（星が丘）のピクスでの交流がそのまま続いている人も複数いる。ママ友達の形は多様で機会は豊富なようである。

千種富士見台地区は、ママ友達の発生場所は3名とも異なり、小学生を持つ母親は小学校、幼稚園児を持つ母親は幼稚園、未就学児をもつ母親は子育てサロンを上げた。小学生になると子どもを通した知人友人が多くなるという意見がみられた。

瑞穂区役所西地区では、保育園と団地内公園に加えて、4人中3人が路上をコミュニケーション発生場と認識している。

瑞穂雁道では、子育てサロン、公園、産婦人科に加えて、4人全員が道での交流を挙げている。路上でのあいさつや立ち話がとても多い。道で会うと知らない人でもあいさつをするため、近所に誰が住んでいるか名前は知らなくても顔と家は一致しているという意見がみられた。このほか、商店街を挙げる人もいた。

### (3) 名古屋に縁があるかとコミュニケーションの発生

団地では7人、住宅地では2人、計9人が名古屋に全く縁がない。この9人のコミュニケーション発生場所は子どもの属性によって異なっていた。園児がいる母親は幼稚園で、未就学児のみの母親は子育てサロンで、同い年くらいの子どもをもつ母親と交流をしていた。本人は名古屋に初めて住むが、夫が名古屋市内出身の人は団地では1人、住宅地では5人いる。住宅地の5人中4人は公園でのコミュニケーションが発生している。公園で発生していない1人は子育てサロンで友達を作り、また、道で会う人にあいさつをすることで地域の人と顔見知りになっている。

名古屋市内出身や名古屋に以前住んでいたことがある人は、団地では4人、住宅地では7人いた。彼女らは、公園や道がコミュニケーション発生場と考える人が多かった。実家の近くに住む人は、最初から土地勘もあり、周辺に住む人を知っているため道でのコミュニケーションが発生しやすいようだ。

名古屋に縁があるほうが地域の人と顔見知りにはなりやすいが、ママ友達を作る上では関係がなさそうである。しかし、親が近くに住むか否かは、コミュニケーション発生に関与しており、すぐに親に頼れない、親が遠くに住む人のほうが、地域に根ざそうと積極的にコミュニケーションを発生させていると考えられる。

インタビュー調査の集計結果の一部を表4に示す。

表4 インタビュー調査集計結果

	地区名	名前	年齢	子供の年齢	居住年数	縁があるか 名古屋に 古屋に	仕事の有無	ストレスの 解消法	今一番の 楽しみ	
一般住宅地	名東上社	CK	33	1歳9ヶ月(女)	1歳5ヶ月(男)	4年	△夫が守山区	主婦	本を読むこと	子どもの成長
		HA	37	1歳3ヶ月(男)		1年半	×なし	主婦	週末夫にどこか連れていってもらおう	子どもの寝顔を見ること
		MT	30	3歳(女)		7年	○名古屋の大学に通っていた	主婦	週に1回は友達と遊ぶ	週末に家族で出かけること
		TN	32	3歳10ヶ月(女)		4年	△夫の実家が名東区	平日9-12	ママ友達と話をすること	子ども抜きでママ友達じゃない友達と会う事
	千種富士見台	MN	34	3歳10ヶ月(女)	4ヶ月(男)	8ヶ月	○八事出身	育休中	週1回の習い事	うたを教えること
		TS	36	7歳(女)	2歳(男)	9ヶ月	△夫が熱田区出身	主婦	一人の時間を作る	子どもが寝た後本を読む
		EI	34	1歳2ヶ月(女)		2年	○本山で一人暮らししていた	主婦	子どもを預けて旅行	子どもの成長
	瑞穂雁道	MM	28	1歳9ヶ月(女)	6歳(男) 4歳(女)	2年	△夫の実家が近く自分も緑区出身	主婦	月1回学生時代の友達に会う	子どもの成長
		SS	30	2歳1ヶ月(男)		半年	△夫の実家が近く	主婦	我慢しないこと	お酒を飲む
		SH	35	8歳(男)		10年	○熱田区出身	主婦	人と話をすること	旅行
		RT	37	2歳半(男)		2年	○港区出身	主婦	月に2回のバイト	これから産まれてくる子
	瑞穂区役所西	MK	31	2歳(男)	4歳(女)	2年半	△夫が瑞穂出身	自営業	感じない	子どもと遊ぶ時間
TK		38	1歳10ヶ月(女)	2年		○昔住んでいた	毎日8-17	感じるヒマがない	仕事の野望を考える時間	
SW		35	5歳(男)	2年		×なし	平日9-13	ママ友とランチ	旅行の計画	
AI		31	3歳(女)	3年		○実家が雁道	育休中	ストレスなし	今の時間	
集合住宅団地	星ヶ丘団地	JK	31	11ヶ月(女)	1歳(男)	3年半	×なし	主婦	週1回家族で外食	子どもの誕生日
		RT	32	3歳(女)		4年	×なし	主婦	ママ友とおしゃべり	高校時代の友達と遊ぶ
		AJ	29	4歳(女)		6年	×なし	主婦	ママ友達と話をすること	友達と遊ぶこと
		IN	35	3歳(女)		5年	×なし	主婦	ママ友とおしゃべり	コーラス
	志賀団地	YY	45	6歳(男)	3歳(男)	8年半	×なし	主婦	夫と話をすること	本を読む
		RD	32	7歳(男)	4歳(女)	4年	○志賀出身	主婦	ママ友とおしゃべり	土日に家族で出かけること
		NH	44	1歳9ヶ月(女)	2歳5ヶ月(男)	2年	○実家が志賀	主婦	子どもが寝てから食べる	昼ドラ
		YK	34	2歳5ヶ月(男)		1年	○西区に2年住んでいた	主婦	子どもと外に出る	料理
	大幸東団地	YT	38	7歳(女)	5歳(女) 1歳6ヶ月(女)	9年	△夫が緑区出身	主婦	人と話をすること	一人の時間
		AI	32	4歳(男)	1歳(男)	1年	×なし	平日9-18	自分の時間を作る	週末に一人でスーパーへ行くこと
		KM	35	1歳(男)		1年半	○実家が今池	主婦	ママ友達と話をすること	本が読みたい
	千代ヶ丘団地	KO	35	7歳(男)	4歳(男) 2歳(男)	1年半	×なし	主婦	いろんな人と話すこと	子どもが寝た後の時間

#### (4) 仕事の有無とコミュニケーションの発生

平日朝から夕方まで仕事をしている4人は、公園に行く時間がないため、公園でコミュニケーションは発生していなかった。発生する場所は保育園が主で、マンション内や近所では顔見知り程度の付き合いしかない。子どものことで悩む時は夫か自分の母親に相談すると4人中3人が答えている。仕事を持つと職場で自然と知り合いが増えるため、近所にそこまでコミュニケーションを求めているのかもしれない。仕事をしている4人は楽しくて仕事をしているという。4人とも子どもと一緒にいられる時はなるべく一緒に遊んであげたいと述べており、子どもとの時間を意識して大切にしようである。また、4人とも同居家族の家事に対する協力と育児に対する協力で満足しており、家庭内で協力的に子育てが進められているといえる。(表4参照)

#### (5) 幼少の第一子とコミュニケーションの発生

幼少の第一子を持つ母親は団地で4人、住宅地で8人、併せて12人いる。そのうち子育てサロンに通う人は7人と多い。また、同じ年くらいの子どもの持つ母親が集まる子育てサロンではママ友達ができやすく、子育てサロンには保健士などの専門家が来ることもあるので、安心するようである。

逆に、幼稚園以上の兄弟を持つ子どもの母親は、上の子が子ども同士で友達になり、子どもを通じて親同士が知り合いになる場合が多いようである。(表4参照)

### 4.3 コミュニケーションの質 (レベル)

3.1節では、コミュニケーションを「あいさつ」と「会話」との2つに大別して表現したが、コミュニケーションの質は会話の中にもあたりさわりのない浅い会話から相談といった深い会話まで幾つか段階が存在する。そこで本節ではコミュニケーションの質を5段階のレベルで表現し、その特性を分析する。5段階の分類は以下の通りである。

---

レベル1：あいさつ（言語を用いないあいさつも含む）、店員と客との関係から発生した業務的な会話

（例えば年賀状を購入するために郵便局員とした会話）

レベル2：あたりさわりのない会話（あいさつの後に少し今日の天気の話をする等）

レベル3：子どもの話・世間話（自分の話ではない話題でコミュニケーションをとった場合など）

レベル4：自分の話

レベル5：悩みを相談

---

コミュニケーションのレベルが発生場所や相手によってどのように変化しているか調べるために、それぞれクロス集計を行った。結果を図9と図10に示す。

#### (1) コミュニケーションの質と発生場所

コミュニケーションの質は発生場所によって、相違がみられた。コミュニケーションの質が高いのは、子育てサロン・家・園のバス停・団地内・公園で知り合った友人である。この5つのうち、家と団地内以外の3つは子どもともに行く場所であり、仲を深めやすいのではないと思われる。反対にあいさつが多い場所はマンション棟内・職場・自宅前・近所の道・商店である。こちらは子どもがいてもいなくても日常行動の中の場所である。マンション棟内と近所の道は5割がレベル1の「あいさつ」である。

団地と住宅地を比較すると、団地では公園と園バス送迎場所のレベルが高く、住宅地は近所



(1) 子どもの年齢とストレスの関係

アンケートでは最も幼い子どもの年齢とストレスの関係は、0歳から3歳にかけて、ストレスを感じる割合は増え、4歳になると少し減っている。インタビューで27人の母親に子どもの年齢とストレスの関係を聞いてみたが、原因はよく分からなかった。ただ、子どもの成長によってストレスの種類が変わってくるという返答ばかりであった。子どもの年齢によってどのような悩みがあるのか、表5に整理しておく。母親の中には0歳児が一番大変と、2歳と3歳が一番大変という2つの意見が多かった。このように子どもの年齢とストレスの関係には種類があり、子どもが成長するに連れて、ストレスと同時に「立つようになった」とか「しゃべれるようになった」といった喜びも出てくるため、一概に説明できないことがわかった。

表5 子どもの年齢と悩みの内容

<p><b>【0歳児】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 泣いているが理由がわからず、困惑する</li> <li>・ 初めての子どもなので何をしたら良いか不安になる</li> <li>・ 夜泣きに慣れることができず寝不足が大変</li> <li>・ 自分がしっかりしていないといけないという責任感がストレス</li> <li>・ 子どもの成長が人より遅いと感じ、不安になった</li> <li>・ 子どもが人より小さく産まれたため、いつも不安だった</li> </ul> <p><b>【1歳児】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少し言葉を発するようになるが、まだどうして欲しいのかわからずコミュニケーションがとれないことが大変</li> <li>・ ハイハイをするようになり、子どもが動き回るの で常に見ていないといけないので疲れる</li> <li>・ 何でも口に入れるので、毎日の掃除を怠ることができない</li> <li>・ 何でも興味を持つのであれもダメこれもダメと言ってしまう自分が嫌になる</li> </ul>	<p><b>【2歳児】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの体重が増えるとだっこが辛い</li> <li>・ 動く様になった分、体力的に疲れる</li> <li>・ 少し言葉が離せる時期なので、自己主張するようになり、母親の思惑通りにならない</li> <li>・ 何でも嫌と言うようになり、あまのじゃくになる</li> <li>・ 第一反抗期に入り、何をさせるにしても苦勞する</li> </ul> <p><b>【3歳児】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己主張するようになり、どうやってしつけをしたら良いか困惑する</li> <li>・ 幼稚園に行きたくないと言いつつ毎日言う</li> <li>・ ママがいないと寂しがり、いつも後をついてくるので一人の時間がない</li> </ul> <p><b>【4歳児】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 何でも「どうして？」と理由を聞いてくる</li> </ul>
--	--

(2) 兄弟の有無とストレスの関係

兄弟がいることによって、母親の心理状況はどのように変化するのか、子どもを2人以上持つ母親にインタビューした。出て来た返答を表6にまとめた。

主に4つの意見が出てきた。兄弟の有無とストレスの関係は人によって差がある。しかし、2人目の子の方が子育てに慣れているから、初めての子よりは楽というのはほぼ共通していた。

表6 兄弟の有無とストレスの関係

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 上の子が下の子を見てくれるので楽になった</li> <li>・ 2人に平等に接するのが難しい</li> <li>・ お兄ちゃんだから、お姉ちゃんだからと上の子に我慢させてしまうことが多く、言った後に反省することが多かった</li> <li>・ 下の子が何でも上の子のマネをしたがり、ちょっかひを出すのですぐ喧嘩になり大変</li> </ul>
--

### (3) 今一番の楽しみ

育児女性の今一番の楽しみに対する回答を図11に示す。自分の時間を楽しみたいという意見が27人中11人、子どもの成長という意見が9人であった。日常生活で子どもとずっと一緒にいる主婦は自分の時間を一番の楽しみにしている割合が高く、他方、仕事をしている人や育休中の人は子どもと一緒にいられる時間を大切にしたいという意見が再確認された。

### (4) ストレス解消法

育児女性のストレス解消法の回答を図12に示す。27人中、ママ友達との会話と10人が答えた。ママ友達との会話がストレスを解消させていることが明らかになった。

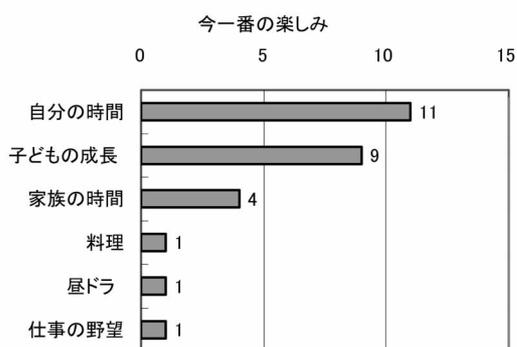


図11 今一番の楽しみ

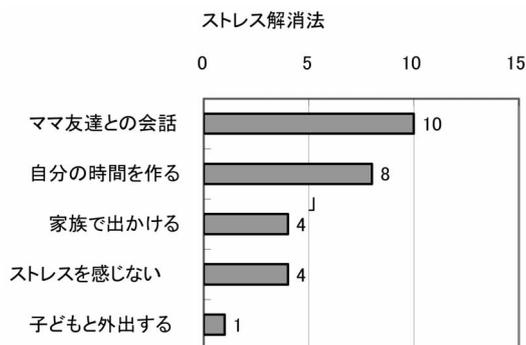


図12 ストレス解消法

## 5. まとめ

アンケート集計結果より、子育て女性は育児不安や負担感を抱いており、日常的にストレスを感じていることが明らかになった。また、そのストレスは日常の生活行動や地域環境にも大きく関係していた。主な知見を以下にまとめる。

- ・ 家族の家事協力は育児負担感を軽減し、子育て満足度を高める
- ・ 家族の子育て協力への満足は育児負担感を軽減し、良好な子育て環境だと感じさせる
- ・ 近所のお店の店員さんとの交流は育児負担感を軽減し、良好な子育て環境だと感じさせる
- ・ 子どもとの外出は育児負担感を軽減し、良好な子育て環境と感じさせ、子どもへの衝動的な態度を軽減し、子どもへの愛情を感じさせる
- ・ 近所によく子どもを連れて行く公園の数がたくさんあると、良好な子育て環境だと感じる
- ・ 近所に同い年の子どもを持つ知人がたくさんいると、良好な子育て環境だと感じる
- ・ 子育てを通して近所に何人も知り合いができると、良好な子育て環境だと感じる

ストレスは家庭内の支援や対象者の属性だけでなく、近所のお店の店員さんとの交流や外出頻度、近所によく連れて行く公園の数、近所に同い年の子どもをもつ知人の数、子育てを通して近所にできた知り合いの数といった日常生活行動が大きく関与しており、近隣地域の環境により子育て女性の育児不安や負担感を軽減させることができ、豊かな地域環境を創造することは子育て女性の心の安定につながるということが明らかとなった。

また、インタビュー調査からは、地域における育児女性の地域住民とのコミュニケーションの場は地域によって異なることがわかった。コミュニケーションの発生特性に関する知見を以下にまとめる。

- ・子育てサロンは幼少の第一子を持つ母親のコミュニケーション発生場であり、同じ年の子どもを持つ母親が集まるため、お互いに情報を交換し、レベルの高いコミュニケーションが発生する
- ・幼稚園や保育園は園児を持つ母親の中でも、名古屋に縁がない人のコミュニケーション発生場となっており、レベルの高いコミュニケーションが発生しやすい
- ・公園は、自分は初めて名古屋に来るが、夫が名古屋出身の人のコミュニケーション発生場となっており、レベルの高いコミュニケーションが発生しやすい
- ・団地内公園はストレス解消法がママ友達との会話と答えた人のコミュニケーション発生場となっており、レベルの高いコミュニケーションを発生しやすい
- ・路上は実家の近くに住む人のコミュニケーション発生場となっており、コミュニケーションでは会話よりあいさつといったレベルの低いコミュニケーションの発生が多い

場所によって発生するコミュニケーションも異なり、地域環境が子育て女性の行動を変えている。日常生活行動は子育て意識に大きく関与しており、近隣地域の環境は子育て女性の育児不安や負担感を軽減させることができる。

最後に、インタビュー調査によって明らかとなった、地域におけるコミュニケーションが心の安定につながっている事例を整理しておく。

- ・ママ友達との会話はストレス解消法になっており、自分の相談ができるママ友達の存在は心の安定につながっている。ママ友達が近所に存在することで、日常的にコミュニケーションが発生し、ストレスを解消できている
- ・団地ではお隣さんや同じ団地に住むママ友達に子どもを預けることができ、自分の時間を作ることができることで、ストレスの解消になっている
- ・地域住民とのコミュニケーションによって自分や子どもを知る人の存在が周りに多いことは、地域の目があると感じさせ、安心につながる
- ・近所でお年寄りと接することができるのは、子どもにとって良いことだと考える母親が多い
- ・同じ年の子どもを持つ母親が近くにいると、子どもの情報が入りやすく、安心につながる

このように、地域におけるコミュニケーションは子育て女性の心の安定や豊かさに影響を及ぼす。コミュニケーションに対して地域が担える役割は、ママ友達との情報交換によって不安を取り除くことや、地域のコミュニティを広げることによって安心をもたらす等の子育て女性の心を豊かにすることである。子育て女性の豊かな地域環境の創造を考えると、地域計画は一律な計画をしても意味がなく、地域特性を活かした計画が不可欠である。

【付記】本研究は早川明日実氏（当時、名古屋市立大学芸術工学部4年生、現、トヨタホーム(株)）との共同研究である。また、本研究の成果の一部は以下で発表されている。

- 1) 原田昌幸，早川明日実，子育て女性の育児環境に関する意識と地域環境，日本建築学会東海支部研究報告集，第46号，pp.565－568，2009年2月
- 2) 原田昌幸，子育て女性の育児環境と地域でのコミュニケーションに関する研究，日本建築学会学術講演梗概集(F)，2009年8月（掲載予定）

## 【引用文献】

- 1) 野口純子、小川佳代、村松恵子(2005)：乳幼児を育てている母親の悩みと育児ストレス ―保育所児と幼稚園児の比較― 香川県立保健医療大学紀要 79-86
- 2) 清水嘉子、西田公昭：(2000)育児ストレス構造の研究 日本看護研究学会誌23(5):55-67
- 3) 平岡康子、松浦和代、野村紀子：(2004)乳幼児をもつ就労女性の育児ストレスと職業性ストレスの分析 小児保健研究 63:647-652
- 4) 定行まり子、根橋由里子(2004)：児童館における中高生対応についての考察?地域における中高生の居場所に関する研究その1― 日本建築学会計画系論文集 第577号 49-55
- 5) 藤田大輔、山崎俊裕(1999)：幼稚園における遊びの誘発要因に関する考察その1～4 に本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 253-254, E-1 295-298, E-1 203-204
- 6) 山田あすか、上野淳(2004)：保育所における育児の居場所の展開と活動場面の抽出方法に関する考察?保育所におけるこどもの生活行動特性と居場所に関する研究その1― 日本建築学会計画系論文集 第588号 57-64
- 7) 佐藤将之、高橋鷹志：保育所における園児の社会性獲得と空間との相互関係についての考察その1～4 日本建築学会大会学術講演梗概集 E-1 163-164(1999), E-1 197-198(2000), E-1 201-202(2000), E-1 131-132(2001)
- 8) 佐藤将之、高橋鷹志(2002)：園児の関係構築と共存する遊び集合についての考察 日本建築学会計画系論文集 第562号 151-155
- 9) 大谷由紀子、瀬渡章子、田中智子(2004)：子育て支援型集合住宅における母親の子育てへの援助に対する意識と居住ニーズ 日本建築学会計画系論文集 第580号 17-24
- 10) 松橋圭子、大原一興、藤岡泰寛、三輪律江、谷口新(2006)：地域における親子の居場所選択からみた子育て支援施設のあり方に関する研究?東京都三鷹市における外出調査より― 日本建築学会計画系論文集 第600号 25-32
- 11) 中谷奈津子(2006)：子どもの遊び場と母親の育児不安?母親の育児ネットワークと定位家族体験に着目して? 保育学研究 第44巻 第1号 50-62
- 12) 朴信永(2006)：子育てにおける認知の改善が養育態度・育児ストレスに及ぼす効果 保育学研究 第44巻 第2号 126-138
- 13) 高橋恒、福田成二、伊藤庸一、岩隈利輝(1981)：近隣における生活行為と空間について―コミュニティ計画の基礎的研究その3― 日本建築学会論文報告集 第306号 103-114